

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿<1月18日（金）放送分>

テーマ「郷土の偉人」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は、毎月第3週に、奄美にゆかりのある作家や偉人を紹介するシリーズ「郷土の偉人」の10回目です。

今朝は、南海日日新聞社の創始者「村山家國」を紹介します。

村山家國は、大正2年7月1日、大和村津名久つなぐにおいて父・村山常太郎つねたろう、母・ウシチヨの間に生まれました。

津名久は、湯湾岳につながる山稜を背に、波静かな入り江を配する村で、藩政期から明治初期にかけて交易用の帆船の停泊地として重宝されました。家國は、そんな自然豊かな環境の中で、活発で才気あふれる少年に育っていきました。

旧制大島中学校に進んだ家國少年は、節約に徹した生活を送っており、今で考えれば普通のことに思えることではありますが、「最近の生徒は贅ぜいたく沢だ。弁当ちば卵焼き、髭ひげを剃るのに贅ぜいたく沢なカミソリを使う。靴ちば運動靴。贅ぜいたく沢」と生徒会の意見発表で言い放ったそうです。

その家國は、大中3年の時に心に期すものがあり、黙って学校を飛び出してしまい、東京巢鴨学園4年に編入しました。さらに、日本大学の特別講座で法学を、早稲田大学で国文学を修め、詩歌の創作にも励みました。

そして選んだ道が鹿児島新聞社への入社。以後の人生は、郷土・奄美の言論、文化の総帥そうすいとして幅広く開花していきます。

村山家國の人生は3つの時代に区分されるといいます。1期は、戦争の辛苦をなめ尽くした時代。2期は、異民族支配下での軍政府の圧力に屈せずに南海日日新聞を発行。「文芸復興」といわれる時代をリード、復帰運動の中心にあって活躍した時代。3期は、復帰後の末広すえひろちよう町時代、言論界の将来を見つめて力を養い、1975（昭和50）年、長浜町ながはまちように新社屋を建設、壮途空しく急逝するまでの時代です。

その中でも特に激動の時代が、南海日日新聞社を創業した軍政下時代ではなかったでしょうか。

鹿児島日報大島総局、南日本新聞大島総局と名称を変えた末、昭和21年11月1日、「南海日日新聞社」は誕生しました。しかし、軍政下時代のこと、軍政府による事前検閲指令や、新聞用紙支給停止処分など苦難の連続でした。そんな中でも軍政府長官と対等の姿勢を貫き、いつも泰然としていたそうです。

村山家國は、奄美の戦中戦後、軍政下時代のことについて、新聞人として当時の記録を丁寧に調査し、昭和46年、遂に『奄美復帰史』を刊行しました。この著書は、奄美の復帰関係の通史としてはほとんど唯一のもので、復帰史についてのほとんどの研究書や論文は、この書籍を踏まえたものです。

また、村山家國は、「奄美大島日本復帰祝賀の歌『朝はあけたり』」の作詞者としても知られます。ちなみに曲は日本を代表する作曲家「山田耕筰」^{やまだこうさく}に作曲してもらい、完成されました。復帰60周年の今年、この歌もみんな歌えるようにしようという動きも出ています。ここで、歌詞だけでも紹介しましょう。

「朝^わはあけたり」

- 1 くないの ころにまもり まもり来^こし
 日^ひのもとの^はた 日^ひのみは^た
 今^{いま}ぞわが手に 島^{しま} 山^{やま}の
 朝^あはあけたり さえぎるものはなく
 朝^あはあけたり さえぎるものはなく
- 2 やつ年^{とし}を ころに凝^こりて よびて来^こし
 は^はらからの^こ国^{くに} 日^ひのも^とよ
 今^{いま}ぞあ^あき^きらに く^くに^にた^たみ^みの
 み^みち^ちは^はとほ^おれ^れり あ^あま^まみ^みの^の島^{しま}ね^ねに
 み^みち^ちは^はとほ^おれ^れり あ^あま^まみ^みの^の島^{しま}ね^ねに
- 3 三^み千^ち年^{とせ}の 国^{くに}た^たみ^みご^ごこ^ころ め^めぐ^ぐり^り来^こし
 新^{しん}た^たなる^の日^ひの こ^この^のおも^いひ
 今^{いま}ぞ^ぞひ^ひと^とつ^つに あ^あひ^ひ起^たた^たむ
 と^とき^きは^はいた^たれ^れり 日^ひの^のま^まる^るさ^さや^やか^かに
 と^とき^きは^はいた^たれ^れり 日^ひの^のま^まる^るさ^さや^やか^かに
- 4 く^くろ^ろ潮^{しほ}の う^うら^らば^ばら^ら北^{きた}に さ^さだ^だま^まれる
 は^はらからの^の島^{しま} さ^さき^きは^はひ^ひは
 今^{いま}ぞあ^あま^まみ^みに 国^{くに}た^たて^ての
 朝^あはあけたり こ^こぞ^ぞり^りて^てた^たな^なむ
 朝^あはあけたり こ^こぞ^ぞり^りて^てた^たな^なむ

繰り返しになりますが、今年は奄美群島日本復帰60周年の年です。この節目の年に、先人の思いや復帰の歴史について学んでみませんか。

以上鹿児島県立奄美図書館でした。